



西日本区中部ホームページ・http://www.ys-chubu.jp/

2012年11月号

「主題」

- 国際会長 : 世を照らす光になろう
 アジア地域会長 : 歳月はY'sをワイズ(賢者)にする
 西日本区理事 : 先頭に立ってワイズの光を輝かそう クラブで、地域で、国際社会で
 中部部長 : 前へ! 声を掛け合い
 プラザクラブ会長 : 明日に希望を クラブに活力を
 強調月間・ポイント:【Public Relations Wellness・ワイズデーは外部に活動報告をアピールするよい機会です。行政・他団体と積極的に関わりを持ち、幅広く広報されるような活動を行いましょう】

11月例会および今後の予定案内

【11月第1例会】

日時: 11月8日(木)・18:45-

場所: 名古屋YMCA会議室

内容: 卓話「ワイズとは」

講師: 島崎 正剛氏

【11月第2例会】

日時: 11月22日(木)・18:45-

場所: 名古屋YMCA会議室

内容: 次月例会の打ち合わせ

出席義務者: 役員(高田・榎田・常盤)

12月担当者(島崎・大島)

1月担当者(鈴木・高田)

【今後の予定】

1. 「こころのケアを考える」講習会

日時: 11月3日(土・祝)・13:00-17:00

場所: 名古屋YMCA 3F会議室

2. 第19回チャリティラン

日時: 11月10日(土)・現地集合8:15

場所: 名城公園(フラワープラザ裏)

◆各自弁当・飲み物持参のこと

3. チャリティーゴルフ

日時: 11月23日(金・祝)・現地集合8:15

場所: 中部国際ゴルフクラブ

費用: 16,000円/人

◆申し込みはYMCAの万福寺まで

4. 12月第1例会(クリスマス例会)

日時: 12月13日(木)・現地集合18:30

場所: ケンポー

10月例会およびその他活動報告 (敬称略)

役員	会員氏名	出席者				
		1	2	①	②	③
直前会長	大島 孝三郎	○	○	○	○	○
副会長	小澤 幸男	○				
書記	榎田 守隆	○	○			○
	後藤 猛	○	○			○
	島崎 正剛					○
	鈴木 誉三					
会長	高田 廣	○	○			
会計	常盤 真理子	○				
連絡主事	万福寺 昭美	○	○			
ゲスト	野村 秋博	○				
	大西 博昭	○				
	若林 芳弘	○				
	飯田 隆芝	○				
	松下 智宏	○				
		①ふるさと交流会 in Nissin 10/6				
		②根ノ上祭り 10/8				
		③陶芸教室 10/27				
出席率・%					77.8	
					当月	累計
クラブファンド・円					7100	17700
12月号寄稿者(400字詰原稿用紙4-5枚程度)・後藤						
1月号・常盤/2月号・万福寺/3月号・小澤						
4月号・鈴木/5月号・島崎/6月号・高田						

【2012-13年度クラブ役員】大島孝三郎・メール委員/小澤幸男・Yサユース/榎田守隆・広報事業・ブリテン担当・HP委員/後藤猛・

副会計/島崎正剛・EMC・交流/鈴木誉三・会計監査・地域奉仕・環境/高田廣・ファンド/万福寺昭美・連絡主事

Public Relation・PR(広報)

10月第1例会報告

日時:10月11日(木)・18:45-20:30

場所:名古屋 YMCA 会議室

1. 卓話「地球環境問題とその対策」

講師:森 健氏



10月5日付の日経新聞社会面には「冬の渡り鳥足早に」の見出しで、アオジやツグミなど毎年横浜市に飛来する冬鳥の初見日が遅くなり、逆に終見日が早く、1986年に渡り鳥6種平均で日本の滞在期間が半年ほどだったのが、今年は30日短くなった。また、同じ日の政治面では、アメリカは来年の3月タイで開くワシントン条約会議に、ウナギ、クロマグロの国際取引の規制対象にする提案を見送った模様、の記事が載った。われわれは地球環境が悪化していることは、日々の新聞やテレビの報道で知っているが、断片的でまとまりがない。卓話は「2万年の間地球の気温にあまり変化はなかったが、21世紀に入り地球の平均気温は20世紀初めに比べて1℃上昇した」と具体的である。因みに、気象庁は今年9月の世界の平均気温が平年に比べ0.24℃高く、1891年に統計を開始して以来過去最高だったと発表する。日本は約2℃上回り観測史上最高を記録した。このままでは「日本は亜熱帯化してマラリアの大流行地になる、との予測がある」、「海面が1m上昇するとモリジブ、ツバルなどは国土が喪失、日本は国土の0.6%、2339km²の面積が海面下になり、そこに住む人たち410万人が被害を受ける」と衝撃的な話が続く。「森林はCO₂の吸収、生物種の保存など大きな役割を担っている。しかしながら、世界の森林面積は2000年から2010年まで年平均で700万haが減少している。減少が大きかったのは、ブラジル、フィリピン、インドネシアなどの熱帯雨林の減少が顕著である」と配布資料に沿い、数字を挙げての説明はよく分かる。最後に「人間も生物の種の一つにすぎない。われわれ人間はおごることなく、循環社会を確立しよう」と結んだ。

2. 「こころのケアを考える」講習会ご案内・野村理事

「こころのケアを考える講習会」とは、私たちが実際に配慮することを考え、「寄り添うこと」を実践できる考え方と行動のスキルを身につけるための講習

です。

(詳細1面参照)

3. 西日本区大会について

四日市クラブの若林さんから、来年中部担当の上記大会開催の折、作業員として各クラブの方々のお手伝いをお願いします、との要請がありました。

4. 連絡事項・高田

(1)ポテトの到着は10月20日(土)午後2時頃。

(2)西日本区大会実行委員会

・10月5日午後7時開催。

・大会当日ワイズメンバーは全員Tシャツを着用のこと。300円/枚、サイズと枚数を申請する。

(3)チャリティラン

11月10日(土)名城公園にて開催、プラザの作業は例年通り距離表示看板の設置・回収とコースの清掃・案内・整理です。

5. 南山ピースフルサンデー(バザー)開催・万福寺

10月28日(日)南山YMCAで午前10時から。

10月第2例会報告

日時:10月25日(木)・18:45-20:00

場所:名古屋YMCA会議室

1. 連絡事項・高田

(1)ポテト・カボチャの代金

11月第1例会にて会計常盤さんに各自支払いのこと。

(2)チャリティラン

ワイズメンバーはYMCA・ワイズと分かるロゴ入りのシャツ・帽子などを着用してください。所持されない方は証明するものを貸与いたします。

(3)クリスマス例会開催

(詳細1面参照)

(4)チャリティーゴルフ

予定人数満たず、0B、お友だちを含め参加者大歓迎。

(詳細1面参照)

(5)西日本区大会実行委員会

プラザ選出委員・委員長は現在、島崎広報副委員長・鈴木会場委員長・大島広報委員・高田企画委員です。大会当日の作業役割は未定ですが、何らかの要請があった場合はお願いします。

ふるさと交流会 in Nissin

ふるさと交流会 in Nissinが去る10月6日、日進市米野木町の日本キリスト教団南山教会の敷地と集会室の提供を受けて、今年も開かれました。東日本大震災の被災者で愛知県に避難してきておられる15ご家族の大人24人と子ども19人、ボランティアの方々57人合計100人が集まりました。バーベキューと歌と語り、少しの時間だけでも辛さを忘れ、ふるさとの仲

間に会え、気持ちをなごませていただけたならと呼び掛けましたものです。



主催はふるさと交流会実行委員会で、その構成団体は名古屋 YMCA、ワイズメンズクラブ西日本区中部、名古屋キリスト教社会館のほか、日進市を中心に活動する市民団体などです。他に協力団体として福島県名古屋事務所、愛知県被災者支援センター、日本キリスト教団南山教会などがありました。

長く続いた猛暑も終わり、薄曇りの気持ちの良い日和でした。食材、燃料、飲み物はもちろんのこと、今年は、バーベキュー用品、日よけのシートの張り掛けまでも、実行委員が持ち寄ったのが特徴でした。参加費は被災者もボランティアも大人 500 円、子ども 300 円の食事代でした。協賛金は非営利活動法人レスキューストックヤード、YMCA、あいち生協、一部のワイズメンズクラブ、名古屋キリスト教社会館、その他個人から寄せられました。

子どもたちはお腹を満足させたあと、リーダーの引率で隣のミニテマパークといわれる愛知牧場へ入り動物に触れあうなど楽しみ、あとかた付けは全員で行い、最後に教会の集会室に移り腹話術、歌、語らいの親睦の時間となりました。コーヒーと手作りのケーキや教会員のみなさんから提供いただきました果物を堪能、お開きとなりました。まだまだ、もどかしい時は続きますが、ふるさとの復旧と生活の安定が早く達成されますようにお祈りするばかりです。

(大島 孝三郎)

根の上まつり報告

根の上を愛する会は体育の日の 10 月 8 日、「秋の根の上まつり」を開き、ワイズメン、その家族と OB、リーダー、YMCA スタッフたち 70 人余りが参加した。

東海クラブのメンバーが、毎月キャンプ場の草木に肥料や活性薬を施したり雑草を刈り取ったりしたお蔭で、会場は快適な場所に仕上がっていた。

イベントは打楽器の演奏やフラダンス、料理長のコースケ君が仕入れたたっぶりの食材で、焼きそば、鳥の丸焼き、トン汁などの野外料理にデザートも忘れないう心遣いに感謝、青い空と美味しい空気を満喫した楽

しいお祭りでした。

来年 4 月 29 日開催の「春の根の上まつり」を楽しみにしております。(参考:「根の上だより」)



自分のルーツを訪ねて

今年の 5 月 1 日、2 日に妻と長男を伴って私の両親の実家を訪ねてきた。両親とも徳島県吉野川右岸近くの農家の出身である。父方は河口から西へ 30 km の現在は徳島県吉野川市、母方は河口から 15 km の徳島県西郡石井町にある。長男の運転で久しぶりの訪問が実現できた。私は名古屋で生まれたが、空襲の時に疎開で母の姉の嫁ぎ先近くの家に移り住んで、5 歳から小 2 の 2 学期までの 3 年弱を過ごした。そこは母の実家からは、南東 6 km ほどの徳島市国府町で四国八十八か所巡礼の十六番札所、観音寺の近くであった。そこから母の実家まで食料の援助を受け、徒歩で何度か行ったことを覚えている。その距離は子どもでも辛いという記憶はない。

今回の訪問は事前にインターネットで地図を取り出し大まかな地理を理解して、カーナビの助けを借りながら難なく目的地に到達出来た。通った小学校までの道、魚釣りをした池、よく遊んだ観音寺の境内などは懐かしい記憶をよみがえらせた。初日は徳島市の駅前のホテルに泊まった。その時は、漠然とした計画しか無かったが、目の前の街の様子を見て、このあたりで伯父が創業した三菱鉛筆徳島販売の会社がある筈だと気が付き、電話局に問い合わせた。会社は吉野川橋のたもとに移転していたが、その孫(紀彦さん、私と同年齢)が引き継いでおり、電話番号も分かった。跡地はデパートの[そごう]となっていたが、デパートのビルの一部を住まいとして残し、紀彦さん家族が居住していた。

早速電話をかけたところ、あいにく本人は留守であったが奥様とは話ができた。「名古屋へと故郷を離れた祥三郎の 8 人の末っ子の孝三郎です。ルーツを訪ね、ノスタルジーを求めて来ております」と趣旨を告げた。私の名前はよく知ってくれていた。「これから、大島の本家や、母の実家に行く予定です」と電話を切った。少し寄り道をしながら両家に着くと本家には連絡をし

てくれてあった。

少し脇道にそれるが、紀彦さんの弟の耕治さん(当時54歳)がトヨタでディーゼルエンジンの研究、開発のリーダーをしていたときの平成9年1月24日、関東の研究施設から本社への帰路、乗務員2人と社員6人が乗ったヘリコプターが霧のため、愛知県岡崎市の山中に墜落して全員死亡したことが大きく報道された。その時まで私の親類の耕治さんが、トヨタに勤めていたとは知らなかった。さらに、事故対策本部長を担当していた副社長の木島巖さんの夫人が、私の中学生の同期生であったことも後で知った。不思議な縁があったのだが残念でならない。それほど私は、四国の親類とは疎遠であった。

本家の現在の当主、和雄さんは第11代に当たり、一時、名古屋の親類の金物問屋に勤務していた。年齢は私より2、3歳年上であった。

さて、私の結婚の時に調べられた報告書によると、ご先祖が農地を開拓した功により苗字帯刀を許され、60町歩余を差配したと書かれてある。しかし、何年に誰がどれだけ開拓したのかの書類など、証拠があるかどうか。私の推定であるが、天明2年(1782)の大飢饉のころではなかったか。当時の当主は第3代仲助(寛政5年没)であったと推定する。第3代までは、過去帳から写した書面には行年が書かれていない。従って生まれた年が分からない。第4代丈右衛門善信は明和2年(1765)生まれであり天明2年の時はまだ16、7歳だったから、仲助の手伝いくらいしかしていないと思われる。また、苗字帯刀についてもどんなものが証拠としてあるのか。そのことも聞かずに帰ってきてしまった。菩提寺について尋ねたら、それほど遠くないが、坂道で狭く、車では行けない。雨が降っていたので断念した。このようにぶっつけ本番で行動したので、またの機会にはもっと準備して出かけたと思っている。私の父祥三郎は第8代からの分家で、私はその6男なので、分家の初代といわれるのか。今まであまり意識してこなかった家系図をこの際詳しく眺めた次第である。(大島 孝三郎)

聖書の言葉

【愚かな者も黙っているときは、知恵のある者と思われ、そのくちびるを閉じている時は、さとき者と思われる。(箴言・17.28)】

【聖書の解説書には『口数が少なければ知恵を持っているんだな、と短絡的な考えをしてはいけない、という戒めです。よく考えているから言葉数が少ないのであって、単に黙っていればいい、と言う意味ではありません』とあるが、われわれ凡人には「沈黙は金、雄弁は銀」、「口は災いの元」、「物言えば唇寒し秋の風」などと同じような意味のことわざを連想する。】

【さらに、思い出すのがアメリカ大統領選のロムニー候補の失言である。共和党候補内定前にテレビのインタビューで「ロンドンオリンピックはうまくいくかわからない」と発言、また裕福層対象の資金集めの夕食会で「47%の人たちは政府に頼り切りだ。自分たちは被害者で政府に面倒を見る責任があり、医療、食事、家、何でも受け取る資格があると思っている」と47%の選挙民を敵にした。10月3日には、『財政赤字削減策として公共テレビPBSへの補助金停止を唱え、「ビッグバードは大好きだけどね」と付け加えた』(10月10付日経新聞)という。余分なことを言ったお蔭でフェイスブックやツイッターで批判の書き込みが急増しているそうである。さて、投資家で大富豪のロムニー氏が当選した場合、自己責任・自由主義・小さな政府、という言葉が跋扈して、日本の政治、経済、社会にも少なからず影響はあるだろうな。】

陶芸教室顛末記



わがクラブが企画した新しい催しの陶芸教室が、10月27日の土曜日に土岐市の佐渡山工房で行われた。

先生は後藤君、櫛田の中高校同期の佐渡山君、まず美濃焼の作り方から。土をひも状にして積み上げる「手びねり」、練った土を同じ厚みの板状にして型に押しあてる「タタラ作り」があり、釉薬は織部や黄瀬戸などとの説明に、初体験の6人はただ頷くだけ。別棟の先生と父親の展示品を見終わって、土こねが始まった。

東海の長谷川さんは皿、島崎さんは抹茶碗、グランパスの荒川、服部さんはぐい呑みらしい、大島さんは四角の漬物容器だという、後藤さんは中皿を作っていた。先生とアシスタントにお願いした同期の森君が、細かいところまで行き届いたお世話をしてくれている。わたしは、みなさんが、楽しそうに作っている姿を見ながら、ホッとしてビールを飲む。

2時半に終わったが「みなさん丁寧ですね」と先生の評どおり、丁寧過ぎて作品が少ない。次回は気楽に自由にのびのびと、色々なものを沢山作りましょう。

12月8日は、出来映えのおおよそが決まる釉掛けの日です。今度こそ模様や色使いを考え、慎重に行ってください。それを本焼きして完成です、お楽しみに。